

えひめの教育を
つなげる
支える
つくる

新しい風

えひめの 地域教育プロデューサー & 地域教育協力隊



愛媛県教育委員会は、地域の教育課題に取り組む
「地域おこし協力隊」を応援します！



Menu

愛媛県の各地で活躍する
「地域教育プロデューサー」「地域教育協力隊」の
活動内容とその魅力をご紹介します！



- 「地域教育プロデューサー」「地域教育協力隊」とは …… p.1
- 配置MAP …… p.2
- 地域教育プロデューサー活動紹介 …… p.3～p.6
- 地域教育プロデューサー・地域教育協力隊の可能性と展望etc. …… p.7

「地域教育プロデューサー」 「地域教育協力隊」とは



Q1 地域教育プロデューサー・地域教育協力隊って何?

愛媛県教育委員会では、市町が各地域の教育課題に取り組む「地域おこし協力隊（OB・OGを含む）」を『地域教育プロデューサー又は地域教育協力隊』として配置するための支援を令和3年度からスタートしました。

地域教育プロデューサー

学校と地域の橋渡し役、つなぎ役として地域の教育課題解決のための企画・調整・運営等に取り組む地域おこし協力隊

地域教育協力隊

地域教育に関わり、それぞれの専門的な分野で協力・支援・提供等に取り組む地域おこし協力隊



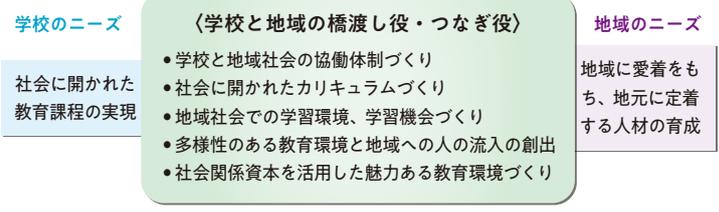
- ◆ 「地域教育プロデューサー」「地域教育協力隊」になるためのStepは2つ！
- Step 1 市町が「地域教育プロデューサー」「地域教育協力隊」として配置
- Step 2 →それを県教育委員会が登録します。
※登録についてはP.7をご覧ください。
- ◆ メリットは
- ★ 県教育委員会は、広報や学校現場への働き掛け、研修会等を開催し、学校と地域との連携強化、スキルアップ・情報収集、活動の広がりや定着に向けてバックアップします。
- ★ 登録することで、活動内容が分かりやすくなり、地域での活動がしやすくなります。

Q2 なぜ地域教育プロデューサー・地域教育協力隊が必要なの?

愛媛県教育基本方針の重点施策として、「社会総がかりで取り組む教育の推進」を掲げ、学校・家庭・地域・企業等の様々な主体が連携・協働した取組を推進しています。

そこで、こうした取組をさらに推進していくためには、学校と、地域との「橋渡し役・つなぎ役」となる存在が重要であると考え、学校や地域のニーズを基に、専門的な役割を担う「地域教育プロデューサー」や「地域教育協力隊」を市町に配置いただき、「学校を核とした地域づくり」「教育の魅力化による地方創生」「地元に残る人材の育成」を推進していく取組を支援します。

地域教育プロデューサー等の役割



学校を核とした地域づくり 教育の魅力化による地方創生 地元に残る人材の育成

これまでも学校と地域をつなぐ役割として地域学校協働活動推進員等の方々が各地域でご活躍されていますが、「地域教育プロデューサー」や「地域教育協力隊」は、学校や地域のニーズを基に全国各地から募集することが可能な「地域おこし協力隊」制度を活用することにより、地域教育の専門・専門人材として、地域の教育課題解決や、教育の魅力化をプロデュースするなど、より大きなフィールドでの活躍が期待されます。

Q3 地域教育プロデューサー・地域教育協力隊の業務内容は?

業務内容は、地域の教育課題によって様々で、それによって求める人材の役割も当然異なります。つまり、業務内容は一律ではなく様々ですが、いくつか例をあげてみましょう。

※詳細は、愛媛県HPをご覧ください。

社会に開かれたカリキュラムづくり			地域社会での学習環境・学習機会づくり		
学校や地域の特色を生かした教育課程やカリキュラム策定支援	地域内外の企業や関係機関との連携した事業の推進・支援	授業や特別活動、部活動等の課題解決型学習の実施支援	放課後や休日等の学びの場、公営塾・未来塾設置等の環境整備	児童生徒の地域ボランティア等の活躍機会の創出	地域における児童生徒と地域住民の交流の場づくり
教育課程における探求型学習の計画支援、郷土学・ふるさと学・地域学の構築支援、外国語教育等に特化した教育プログラム推進支援、学校との連携による特色あるカリキュラム策定など	えひめジョブチャレンジU-15 協力企業との調整、キャリア教育プログラム作成、インターンシップや商品開発等における学校と企業の連携・調整など	総合的な学習の時間・探求型学習の実施支援、郷土学・ふるさと学・地域学の実施支援、特別活動や部活動における外部人材との連携・調整など	放課後の学習・体験活動運営、休日や長期休業中の学習・体験活動企画・運営、公営塾や未来塾設置・運営、地域人材の発掘・調整・コーディネート、地域学校協働活動推進員など	中高生の地域貢献活動のプロデュース、児童生徒の地域ボランティアの募集・参加調整、児童生徒の地域活動の伴走、公民館活動における中高生の活躍機会創出など	伝統芸能継承活動支援、地場産業・特色のある産業の体験の場づくり、大人と子どもがともに学ぶプログラム創出など

Q4 地域教育プロデューサー・地域教育協力隊を活用するためには?

- 市町・市町教育委員会の皆さまへ
- 全国各地で教育に関わる地域おこし協力隊のニーズが高まっています。地域づくりの新たな人材である「地域教育プロデューサー」「地域教育協力隊」と一緒に地域課題の解決に向けて取り組んでいきましょう。愛媛県教育委員会は、その活動をバックアップします！
- 学校関係者、地域活動に関わっている皆さまへ
- 各地域の「地域教育プロデューサー」「地域教育協力隊」の皆さんの活動内容を知っていただき、是非教育現場でご活用ください。詳しくは、各市町の教育委員会又は地域おこし協力隊担当課にお問い合わせください。

We are

えひめの 地域教育プロデューサー 地域教育協力隊 配置MAP



▶ 令和5年3月9日時点 ◀
地域教育プロデューサー…14名
地域教育協力隊…2名

松山市/地域教育協力隊
齋藤 恵子さん
●調理師免許や野菜ソムリエ、フードコーディネーターの資格を生かした「食」に関するイベントの企画・運営
●小中学校、高等学校の授業支援
●地域団体と連携して特産品を開発

上島町/地域教育プロデューサー
来住 美里さん
●愛媛県立弓削高等学校の高校魅力化の支援、推進
●弓削高校魅力化コーディネート業務
●上島町公営塾の運営

上島町/地域教育プロデューサー
中山 なぎさん
●愛媛県立弓削高等学校の高校魅力化の支援、推進
●上島町公営塾の運営、学校・地域連携

伊予市/地域教育プロデューサー
本多 正彦さん P.6
●双海町翠地区ほたる保存会事務局長（環境教育）
●伊予市グリーン・ツーリズム推進協議会副会長（体験活動）
●地域教育実践ネットワークえひめ実行委員
●一般社団法人えひめ暮らしネットワーク参事

東温市/地域教育プロデューサー
藤岡 慶太さん
●東温市地域学校協働活動推進員として、学校・家庭・地域連携推進事業に参加及び協力

西予市/地域教育プロデューサー
齊藤 湧太さん P.4
●市内高校の魅力化
●学校、地域の連携推進

西予市/地域教育プロデューサー
岡島 弘幸さん
●市内高校の魅力化
●学校、地域の連携推進

内子町/地域教育協力隊
武田 惇奨さん
●内子町ICT教育支援全般

西予市/地域教育プロデューサー
島田 雄飛さん
●市内高校の魅力化
●学校、地域の連携推進

久万高原町/地域教育プロデューサー
山路 稜子さん
●地域の自然や文化を取り入れた総合的な学習の時間や探究活動の支援
●教員のための課外学習支援、伴走

内子町/地域教育プロデューサー
小田原 希実さん
●愛媛県立内子高等学校小田分校の教育魅力化推進

西予市/地域教育プロデューサー
染田 麻弓子さん P.5
●コーディネーター・児童・生徒の課外学習支援・伴走
●児童及び生徒・学校・地域のニーズを踏まえた教育に関するプログラムの開発支援、実施
●総合的な学習の時間や探究活動の支援・講師マッチング

鬼北町/地域教育プロデューサー
川井 康悦さん
●愛媛県立北宇和高等学校の高校魅力化の支援、推進
●鬼北町公営塾の運営

松野町/地域教育プロデューサー
川嶋 健佑さん
●俳句を通じた地域理解への取り組み及び国語教育

鬼北町/地域教育プロデューサー
藤波 架江さん
●愛媛県立北宇和高等学校の高校魅力化の支援、推進
●鬼北町公営塾の運営

松野町/地域教育プロデューサー
六車 浩二さん P.3
●町内及び近隣小中学校への出前授業
●電子工作・プログラミング教室開催
●愛媛大学と連携して農作業ロボットを開発

◆最新の配置状況は、愛媛県ホームページでご覧いただけます。
https://www.pref.ehime.jp/k70500/chiikikyoku/producer_haichishien.html



ICTで地域おこし

活動自治体：松野町

むぐるま こうじ
六車 浩二 さん

■ 関連・活動機関等

松野町教育委員会、松野町立小中学校、愛媛大学 ほか

■ Profile

私は新聞社印刷工場で工場内生産・建物設備の保守・改善業務に携わり、2017年4月定年退職後に大学院に進学、工場内の課題を解決できるアイデアの実現に向けた研究をしながら、技術顧問（非常勤）として工場内技術者の育成に取り組んでいました。縁あって2020年10月（当時63歳）に愛媛県一小さな町の松野町で「地域おこし協力隊」として着任、今までに培ってきた知識や経験を活かしながらICT支援業務を中心に活動しています。



▶ ICT教育を切り口に

過疎化・高齢化が深刻な地域での課題解決はハードルが高く柔軟な発想が必要とされ、私の場合はICT支援を切り口にして小中学校での出前授業、CoderDojo（世界規模の電子工作・プログラミングのボランティア組織）開催、愛媛大学と連携した小型農作業ロボットの開発などの活動を展開しています。

小中学校の出前授業ではWindowsタブレットを使用していますが、サーバー管理下の厳しい制限があるため、パソコンへのアプリインストールが不要なプログラミング用クラウドサービス（Microsoft MakeCode）と教育用に開発された安価な小型マイコン（MicroBit）を使ったロボット制御プログラミング教室を開催しています。他にもAR（拡張現実）・VR（仮想現実）アプリや360度カメラを使った町内観光スポット紹介コンテンツの制作もしています。

CoderDojoでは、愛媛大学と連携して開発中の小型農作業ロボットで主要制御電子部品となっている小型マイコンをメイン教材にして使用、地域課題解決に密接したICT教材で電子工作・プログラミング教室を開催しています。



▶ 地域課題解決を目指して

小型農作業ロボットの早期社会実装に向けた研究では、農作物（サツマイモ、桃、栗、柚子、梅など）収穫コンテナを人に自動追従させながら搬送できる低価格導入可能なロボットを研究、研究室ゼミで学部生への関連技術の講義も担当しています。

また、サツマイモの六次産業化プロジェクトに協力、栽培したサツマイモの収穫コンテナを搬送するロボットを試験走行させました。この収穫したサツマイモを焼き芋にしてデジタル精度計を使った「スイートコンテスト」開催やトイドローンを組み合わせたクレーンゲームでサツマイモを販売できるロボット開発を企画中です。

松野町に限らず、全国的に人口減少や高齢化が深刻な地域が多く、農作業負担を軽減するロボットの社会実装、持続可能な農業を実現させるスマート農業や高収益ビジネスモデルなど地域の課題を解決できる人材育成も急務です。社会のつながりを意識しながら、広く社会に貢献したいと考えている人は年代を問わずたくさんいると思います。65歳超の地域おこし協力隊は全国的にも稀と思いますが、地域に役立っていることを肌で実感したい人が集える枠組みが広がっていくことを期待しています。



地域の声

六車さんの着任は、ちょうどGIGAスクール構想に基づき、小中学校へ端末が導入される時期と重なりました。当初から端末の運用・管理面を中心に活動し、小中学校では、出前授業や教職員向けのICT研修会、また、町内フリースペース「せいけACCELE（アクセル）」で地域住民を対象とした定期的なプログラミング講座も開催しています。六車さんの活動はICTにとどまらず、これまでの経験を活かした設備の整備や、なんと！お菓子作りも得意で、新作のお菓子ができると事務所で振る舞っていただきます。

地域活動にも積極的に参加され、子どもから高齢の方までの皆さんが信頼を寄せる地域教育プロデューサーです。

松野町教育委員会教育課 係長 藤藪 享史 氏

学校・地域とともにつくる学び舎 公営塾

関連自治体：西予市

さいとう ゆうた
齊藤 湧太 さん

■ 関連・活動機関等

県立宇和高等学校三瓶分校、県立野村高等学校

■ Profile

西予市の地域教育プロデューサーとして活動している齊藤です。令和3年から地域おこし協力隊として着任しました。高校魅力化をミッションに県立宇和高等学校三瓶分校と県立野村高等学校で公営塾の運営をしています。主に、自立学習支援やイベント・ワークショップ等の企画、放課後の居場所づくりに取り組んでいます。また、三瓶町にて地域交流拠点「Library&Kitchen まきば」を有志とともにつくっています。



▶ 三瓶分校公営塾「C-LAB」 / 野村高校公営塾「あやぐも塾」

県立宇和高等学校三瓶分校で公営塾「C-LAB」、県立野村高等学校で公営塾「あやぐも塾」を運営しています。基本的には、高校生の自立学習支援やイベント・ワークショップの実施、放課後の居場所づくり等の活動を行っていますが、高校や生徒のニーズに合わせて公営塾ごとに、それぞれ特徴があります。

例えば、「C-LAB」では、生徒のやりたいことを起点にイベントを企画したり、ゲストとの交流を通じて、自分自身の将来について考えるきっかけをつくっています。塾生自身が、自ら企画し、ワークショップを開催することもあります。

「あやぐも塾」では、志望理由書を一緒に考えたり、グループディスカッションの対策をしたりと、より総合型選抜などの推薦入試を意識した取り組みを行っています。推薦入試に向けた対策を行う中で、真剣に自分自身と向き合い、葛藤しながら、改めて自分の思いや考えを言語化することで、自分と社会とのつながりを感じるきっかけになっていると実感しています。

取り組みを通じて、一人ひとりの視野が広がったり、地域社会とのつながりを実感しながら、主体性や協働性を育んだりできる場になりたいと考えています。そのためにも、それぞれの地域の特性を活かし、高校や地域の方々と協力して、よりよい形を模索しながら活動を進めていきたいと思っています。



游学 インターン

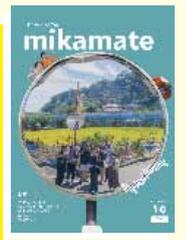
▶ 游学インターンシップ

令和4年7月から10月までの4か月間、公営塾「C-LAB」のインターン生として「地域×教育」をテーマに地域インターンシッププログラムを開催しました。愛媛県内のみならず、徳島、広島、福岡、大阪などから大学生9名の参加があり、オンラインと現地での活動を併用して、高校生向けのワークショップの企画や地域でフィールドワークをしながら地域雑誌の制作などを行っていただきました。

大学のない三瓶町では、進学や就職を機に町を離れることが多く、18歳～22歳の大学生世代と関わる機会は少ないです。そのため、高校生にとっては、「年齢が近く身近に感じることができる先輩と関わることで、自分自身の将来や進路について考えてほしい」、大学生にとっては、「地域や高校をフィールドに実践の機会としてほしい」と思い、インターンシップを実施しました。

実際に、高校生との対話型イベントの企画・実施を通じて、高校生からは「大学生のやっていることを知って、大学がより身近なものに感じた」「○○さんと同じ大学に行きたい」といった声をもらいました。また、大学生の視点から三瓶町を伝えたいという思いのもと制作した雑誌『mikamate』は、三瓶分校の全校生徒への配布や町内のお店に掲示・設置してもらいました。

大学生と地域のつながりも生まれ、プログラム終了後も継続的に三瓶町に足を運び、活動してくれる大学生も生まれています。



地域の声

齊藤さんは、市が運営する公営塾のスタッフとして、また地域教育プロデューサーとして公営塾等の運営による放課後や休日の学びの場の提供、地域での学習機会の創出などに取り組んでくれています。今年度は、「地域×教育」をテーマに三瓶町の住民や高校生と大学生が交わるインターン企画を実践し、双方にとってとてもいい刺激を生んでくれました。また、近くオープン予定の地域交流拠点設置にあたっては、地域住民を巻き込むアイデアを出しながら準備してくれています。

齊藤さんには、持ち前の企画提案力や行動力を活かして、これからも学校や地域の橋渡し役・つなぎ役として、学校や地域を維持・活性化していくためにいろいろなことにチャレンジしてくれることを期待しています。

西予市政策企画部まちづくり推進課 担当係長 片山 大輔 氏

地域も学校も子どもたちも。 三方よしの関係づくり

活動自治体：西予市

そめだ まゆこ
染田 麻弓子 さん

■ 関連・活動機関等

野村地域自治振興協議会・西予市立野村中学校・県立野村高等学校 ほか

■ Profile

令和3年7月にせいよ地域おこし協力隊に着任し、地域づくり団体「野村地域自治振興協議会」の役員としてまちづくり活動に参加するほか、放課後子ども教室のコーディネーターや高校生まちづくり団体「N-ジオチャレ」の伴走、野村中学校総合的な学習の時間のプロデュース、野村高校の探究の時間サポートなどに携わっています。令和4年度は野村中学校運営協議会委員も務め、地域と学校をつなぎ、地域を盛り上げようと活動しています。



▶ 野村中学校総合的な学習の時間

平成30年7月豪雨からの復興を進める野村地域では、様々な立場の方が復興活動を行っています。そのような中、中学生も地域のために何かできるはずだ、何かやりたい！という中学校の思いをうかがい、令和4年度は、総合的な学習の時間で復興プロジェクトのプロデュースをさせていただくことになりました。

地域でどのような活動をしている人がいるのかを知るところから始まり、5月には生徒発案のプロジェクトを生徒総会で提案。「ゆるキャラをつくりたい」「中学校の文化祭に地域を巻き込みたい」「特産品を開発したい」「野村地域をテーマにしたボードゲームを作りたい」など、様々なアイデアから八つにプロジェクトを絞り、全校生徒が縦割りのグループに分かれて一年間取り組みました。7月には婦人会や商工会、青年団、観光物産協会、社会福祉協議会、行政職員や地域住民のみならずにもご協力いただき、中学生と一緒にプロジェクトの計画策定に取り組みました。いよいよ本格的な活動を始めた2学期。計画通り進んだプロジェクトもあれば方針を変えたプロジェクトもありました。限られた時間での活動ではありましたが、2月には協力いただいた団体、地域住民のみならず、愛媛大学生や教育関係者をお招きしての活動報告会を実施しました。報告会ではポスターセッションの時間を設けたことで、生徒と参加者の活発な意見交換が行われ、プロジェクトへのアドバイスや今後の展開についても相談できる場となりました。



▶ 地域と子どもをつなぐ

私は地域教育プロデューサーとして活動するほか、「野村地域自治振興協議会」という地域づくり団体に所属し、役員として様々な会議や地域活動に参加しています。まずは自分が地域活動に積極的に参加することで、「イルミネーションイベントに放課後子ども教室で作品を作って展示させてもらおう」「イベントで子どもたちに発表してもらおう」など、子どもたちが地域活動に参加しやすい環境を整えています。

小・中学生を対象とした放課後子ども教室のほか、野村高校の探究プロジェクトでは、地域の一大イベントである「乙亥大相撲盛り上げ隊」を募集し生徒の活動をサポートしたり、高校生まちづくり団体「N-ジオチャレ」の伴走をしたり、「地域を教育で盛り上げる」という思いのもと活動しています。地域にとっても、子どもにとっても利益になるWin-Winの関係が理想です。学校での活動においては、学校や先生の負担を減らし、地域・子ども・学校の「三方よし」を目指しています。

まだまだ目指すところは遠いですが、地域にとって、子どもは守るべき大事な宝であり、重要なプレーヤーです。子どもたちが地域を愛し、信頼し、地域は自身を守る居場所であり、力を発揮する舞台だと感じられることを願っています。



地域の声

復興支援活動の準備段階で地域おこし協力隊の染田様の存在を知り、令和4年度から本校の学校運営協議会の委員に就任していただき、学校と地域の橋渡し役を引き受けていただくこととなりました。人間力が豊かで、人が持っている特徴やよさを引き出すことのできるよい資質を持たれており、生徒や教師さらに町民のアイデアに対して、染田様から様々な提案をいただき、活動がよりよいものになっていきました。これらの活動を通して、生徒や職員の自己肯定感や自己有用感が高まるとともに、野村町全体の協働の精神が高まったと思います。何より、「地元の高校に進学して、今年度行ってきた復興活動を引き続いて行いたい」と述べる多くの生徒を育成できたことを誇りに感じています。

西予市立野村中学校 校長 岩本 数明 氏

地域の笑顔を増やしたい

活動自治体：伊予市

ほんだ まさひこ
本多 正彦 さん

■ 関連・活動機関等

双海町翠地区ほたる保存会、一般社団法人えひめ暮らしネットワーク、
双海町こども教室実行委員会 ほか

■ Profile

東京都出身。長らくテレビ番組の映像制作に携わってききましたが、2013年地域おこし協力隊として伊予市双海地区に移住。以降、現在に至るまで「地域に笑顔を増やす」活動として、移住支援や公民館活動支援など、学校・地域・関わる人・地域外などをつなぐ様々な活動を行っています。2020年より一般社団法人えひめ暮らしネットワーク理事として、県内協力隊のサポートや県移住相談員もしています。



▶ みらいの担い手を増やす

少子化に悩む伊予市双海地域、ココで育った子どもたちは大人になったときに帰ってくるのでしょうか？高校のない双海地域では、中学校を卒業すると一日の大半を地域外で過ごすようになります。進学・就職ともなると、さらに外の世界で羽ばたいていく。それは素晴らしいことなのですが、いつか何かのきっかけで故郷に帰るといった選択肢が頭に浮かぶかどうか、それはやはり中学校卒業までの間にどれだけ地域に愛着を持てるように育ったかがとても大きい要素だと思います。

故郷での暮らしを楽しむ、故郷の自然・文化・暮らし、そして人々を知り愛着を持てるような子ども時代を過ごすための支援を行うのがこの活動です。具体的には旧町の頃から実施している「双海町こども教室」といった課外体験活動や、その卒業生たちで構成する「双海町ジュニアリーダー会」の活動支援です。子ども教室は、年間を通じて故郷の自然・産業・文化などを体験する「ふるさと体験塾」、年間2～3回の単発開催をする「おもしろ大作戦」、4～6年生の希望者を対象とした6泊7日の通学合宿である「夕焼け村」が主な活動です。また、卒業生である中学生から大学生で構成される「双海町ジュニアリーダー会」は、近年、小学生の活動のサポートのみならず、独自企画の活動にまでその幅を広げています。

故郷のことを考え楽しむ活動を共にすることで、いつか故郷で暮らすことを選び帰ってくる子が一人でも増えることを願っています。



▶ いまの環境づくり

課題だらけの地域ですが、そこで大人たちが楽しく暮らす、そんな雰囲気づくりも大事だと思います。双海地域は元々自治公民館活動がとても盛んで、青年から壮年世代にかけてはソフトボール大会や運動会などの体育行事も盛んでした。自分の公民館の体育行事をとにかく楽しみたいと、役をするなどして盛り上げていった結果、好成績を残すようになりました。主な目的は懇親なので勝つことは至上命題ではないのですが、そこはスポーツ、結果が出ることで意識も高まりチームワークがどんどん増していきました。この青年部（実際は壮年層がほとんど）の面々は、付き合いが盛り上がった結果、地域行事の際に今ではやらなくなっていた炊き出しなどを自分たちが主体となって復活させました。すると、しんどくなったとやらなくなっていた女性陣も手伝いに出てきてくださり、活動に賑わいが戻りました。課題は山積みですが、課題解決という切り口だととて重苦しくなり、動けなくなってしまう。しかし、楽しいが蔓延していった結果、改善できる課題もあると思っています。

盛り上がりは更に増し、老若男女皆が力を合わせる運動会でも総合優勝に輝きます。これは旧町の頃から60年程続く歴史の中でわが公民館にとっては初の快挙でした。この様子を見ていた子どもたちは、大きな祝福と共に「この地域が好きだ」と言ってくれました。いまの環境づくりは、みらいの担い手づくりにもつながっていたのです。

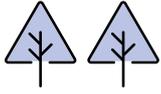


地域の声

本多さんが地域おこし協力隊員として家族4人とともに双海町にやって来たのは今から10年前でした。以後移住促進の特命を受け、多くの移住者を受け入れるなどの成果を挙げ、3年の任期を終えた後も町に定住し、PTAや消防団、ほたる保存会、グリーン・ツーリズム、子ども体験塾などの活動に積極的に関わっていて、有能な能力を生かし活動の領域を県内外に広げています。

地域おこし協力隊は当初、産業や観光といった分野で地域の活性化を図ることが主な任務でしたが、最近は地域教育の分野にも活動の輪を広げ、移住・定住しながら県下各地で地域教育プロデューサーとして様々な活動を行い、少子化や過疎化の進む地域の教育力アップに大きく貢献しています。中でもこれまで手薄だった地域と学校の橋渡しとしての役割は、今後ますます重要になってくると思われますが、社会全体が疲弊しがちなコロナ禍の今だからこそ、皆さんの若いエネルギーで県内に「新しい風」を起こしてほしいと願っています。

双海町こども教室実行委員会 委員長 若松 進一 氏



有識者からのメッセージ

連携団体からのメッセージ



愛媛大学大学院教育学研究科特定教授

遠藤 敏朗 氏

—— 略歴 ——

愛媛県地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会委員
愛媛県公民館連合会専門委員 学びのコミュニティ研究所事務局
地域教育実践ネットワークえひめ実行委員 元公立小学校長

地域おこし協力隊の方たちの見方・考え方はとても魅力的で、新しい地域づくりのヒントもたくさんあります。それ以上に、他地域からその地域の住民となって、地域活性化や地域創生の仕事にチャレンジする協力隊の生き方に、子どもたちにはぜひ出会ってほしいと思います。

さて、地域の未来を担うのは、子どもたちです。地域の未来を輝かせるには、子どもたちを地域全体で育てようとする当事者意識をもつ大人たちのネットワークの構築がポイントです。あらゆる垣根を取り払って、チームで子どもたちを育てるという風土を各地域で醸成していくことが急がれます。

そこで、期待されるのが、地域教育プロデューサー・地域教育協力隊です。志のある隊員が家庭や学校や地域や行政等に寄り添いながらも子どもたちを輝かせることを使命として、それぞれをつなぐ役割を果たすことで、地域の未来が輝いていく可能性が大きくなります。

地域教育プロデューサー・地域教育協力隊に期待したいことは、地域や学校の魅力発信の役割に加えて、「**地域と学校・子どもたちをつなぐ**」ということです。地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）の一人として、各市町で活躍していくことで、「地域とともにある学校づくり」×「学校を核とした地域づくり」の一体的推進も加速していく可能性を感じています。また、地域と学校をつなぐことで、「社会に開かれた教育課程」の実現も加速・充実していくことは必至です。

「**地域の学校**」をプラットフォームとした**地域の未来図**を、子どもたちも含んだ地域住民と行政と地域教育プロデューサー・地域教育協力隊が協働作業で描いていくことに**チャレンジ**できれば、ブラボー！…です。

愛媛県内の市町が地域おこし協力隊制度を導入して約10年になりますが、ここ数年で教育に関わる地域おこし協力隊のニーズが高まってきていると同時に、公営塾講師や高校魅力化プロジェクトといった、教育をミッションとした隊員が増えています。

彼らはとても能力が高く**人間的にも魅力的**で、地域と教育機関のつなぎ役となる「地域教育プロデューサー」や「地域教育協力隊」として**大きく活躍する可能性**があると言えます。

そのような状況の中、この事業に期待したいのは、各地域での隊員たちの様々な取組みのシェアです。塾講師として学生と向き合う時間が多い方もいれば、地域側に立ちながら教育現場とやりとりをしている方など、各地域それぞれ置かれている立場や環境がかなり違います。つまり、地域と教育機関のつなぎ役には多種多様な形があるということ。他の活動事例を知ることで、自身の活動でのヒントが見つかることを期待したいです。

また、今後取り組んでいかなければいけないのが、「**教育**」に携わる隊員の任期後の**生業づくり**です。地域教育は必要不可欠な事業でありながら、特に過疎地域における教育分野で、民間事業として収益化することは非常に難しいと言えます。「教育」は、長く継続していくことが大事であり、成果は中長期なスパンで考えなければいけません。したがって、「教育」を仕事として成立させることを一緒に考えていく必要があります。起業のためのアドバイス、就業の情報、本事業をはじめとする行政事業での、報酬を与える仕組みや機会を整備することが望ましいです。

我々（一社）えひめ暮らしネットワークとしても、地域教育プロデューサー・地域教育協力隊が継続的に活躍できるよう、微力ながら協力させていただきたいと思っております。

一般社団法人えひめ暮らしネットワーク代表理事

板垣 義男 氏



—— Profile ——

神奈川県横浜市出身。2011年の東日本大震災をきっかけに松山市に移住。2016年よりえひめ移住コンシェルジュとして県全域の移住促進に携わり、2020年に（一社）えひめ暮らしネットワークを設立。移住促進のみならず、地域おこし協力隊や既移住者のフォロー、ローカルビジネスを目指す方のためのバックアップに取り組んでいる。

登録について

▶Step 1

市町が登録申請書を県教育委員会に提出します。
市町が「地域教育プロデューサー」や「地域教育協力隊」を配置することを県教育委員会に連絡するものです。

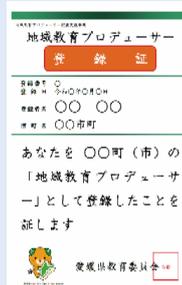
▶Step 2

県教育委員会は、いただいた内容を登録します。

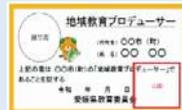
▶Step 3

登録が完了しましたら、「地域教育プロデューサー」や「地域教育協力隊」の登録証を市町を通じて、「地域教育プロデューサー」や「地域教育協力隊」の方々にお渡しします。併せて、持ち運びしやすいよう、サイズの小さな「証明証」も送付いたします。
詳細については、愛媛県教育委員会事務局社会教育課までお問い合わせください。

登録証



証明証



一般社団法人えひめ暮らしネットワーク
<https://ehimelife.net/>



研修会・情報交換会

- 全国各地から講師を招き、ステップアップ研修会、情報交換会を開催しています。



発行：お問合せ窓口

愛媛県教育委員会事務局管理部社会教育課

TEL 089-912-2933（社会教育グループ直通）E-mail : shakaiky@pref.ehime.lg.jp



◆「地域教育プロデューサー」「地域教育協力隊」に関する詳しい情報は、愛媛県ホームページでご覧いただけます。

https://www.pref.ehime.jp/k70500/chiikikyoku/producer_haichishien.html

